

八劔神社虫まつり 氏子ら参列



五穀豊穰ほうじょうを祈願

諏訪

諏訪市小和 一つり（除蝗祭）を境内で執り
田の八劔神社 行った。氏子代表者をはじめ
は18日、夏季大祭として虫まめ、後藤茂之経済再生担当大

八劔神社の境内で
行われた虫まつり

臣や金子ゆかり市長らが参列した。宮坂清宮司が御戸開きの儀を行い、神饌しんせんを供えてから祝詞を奏上。参列者たちは玉串をささげて五穀豊穰ほうじょうを祈願した。

宮坂宮司は直会でのあいさつで、807年に書かれたとされる「古語拾遺」から虫まつりの起源を説明。「穀物の神の怒りを買った大地おほとち主神が虫害を鎮めるため、白猪、白馬、白鶏を献じた」逸話が祭りに転じたという。「皆さんの心に巣食う虫や災いを除ければ」と話していた。

大総代の大久保一さんは「総代の任期は3年で自分は最終年に当たるが、コロナ禍の影響があり、こうして直接集まることができたのは初めて。時間の許す限りゆつくりと過ごしてほしい」と語った。